≪平成28年度専任教員対象≫　平成28年度　学外研修会等参加報告について

所属	教員名	出張日	用件	出張先	内容報告
ビジュアルデザイン研究室	宮崎　詞美	2016/7/23	創価大学教育フォーラム「高大接続とアクティブラーニング」	創価大学	京都大学高等教育研究開発推進センター溝上慎一教授の基調講演 「アクティブラーニング論を通して高大接続・トランジション改革にかける想い」を聴講しました。 アクティブラーニングとは「一方的な知識伝達講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味でのあらゆる能動的な学習のことであり能動的な学習には『書く・話す・発表する』などの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴うものである」と定義づけ、ファシリテーターとして教員が学生の主体性を引き出す演習を用いた教育方法について解説されました。アクティブラーニングを通じた （1）習得・活用・探求という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。 （2）他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める対話的な学びの過程が実現できているかどうか。 （3）子供たちが見通しを持って粘りつよく取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる主体的な学びの過程が実現できているかどうか。という3つの視点の重要性を挙げていました。 　最後に「学生が主体的・対話的な学びを基礎に、深い学びができるようになることが大事である」と述べていました。その他、創価大学理工学部における大学全体の取り組みの紹介がありました。「パスカル入試」法は美大にも導入できる可能生を感じました。（参照：創価大学ニュース http://www.soka.ac.jp/news/information/2016/07/15581/）
ビジュアルデザイン研究室	宮崎　詞美	2016/9/26	日本学生支援機構主催「発達障害学生支援における学内支援体制の構築」セミナー	日本科学未来館	大学等で障害学生支援に携わる教職員等を対象に、発達障害に焦点をあてて開催されたセミナーでした。『分科会1.発達障害学生に対する支援チームの形成と合理的配慮の探究』に参加しました。「発達障害学生支援における学内支援体制の構築 ～支援者間の連携の在り方について～」と題した基調講演と、富山大学「自閉症スペクトラム障害のある学生の修学支援～学部と支援室とのコラボレーションによる合理的配慮の探求～」と題した全体話題提供が行われた後、基調講演と全体話題について質疑応答が行われました。その後、午後から分科会では修学支援の現状が報告されました。質疑応答の中で発達障害学生を擁する各教育機関での取り組みや問題点を知る事ができましたが、個々の学生によって必要な支援や配慮は異なるため「何をすれば良いのか」という正解はなく、現状はそれぞれの状況に応じて支援方法を模索している状況が伺えました。その中で「担当・担任」といった立場で障害学生のお世話係をもっぱら受け持つ部署と人物を設定し、設定・配置し、状況を良く観察して事例を集めて発表していることも見えました。そのことにより受け持った教職員の責任は大きくなりますが、その負担を「仕方ない」と片付けず、軽減する方法を探っている面も見えました。一方「障害を持っている」ということを認めない保護者や学生がいることもふまえて「障害を持つ学生を受け入れている」という状況を、個人情報の観点や教育方針の公開の観点から積極的に公表することの難しさや、体制を整えて対応を探る上での医学的知識の必要性も感じました。また、今回は教職員側からの「発達障害学生への対応」が報告されましたが、実際に一緒に学んでいる健常の学生たちと障害を持つ学生が何を感じ、どのように向きあっているのかを知り、また学生がどのように毎日学生生活を送ると良いのかを考えていく必要もあるのではと感じました。実施要項、配布資料、概要は http://www.jasso.go.jp/sp/gakusei/tokubetsu_shien/event/zenkoku_seminar/h28/seminar1.html　でダウンロードできます。
共通科目研究室	内田　均	2016/9/10-9/11	英米文化学会第34回大会参加	常葉大学富士キャンパス	常葉大学富士キャンパスで開催された、英米文化学会第34回大会に出席した。本学会の理事として、両日とも、主に大会運営の業務（会場内におけるプログラムの掲示、その他大会発表の準備および円滑な進行のための作業）をおこなった。 　また、当日出席した2つの出版社の営業担当者と、当学会の今後の出版事業に関する意見交換をおこなった。さらには、研究発表の聴講を通じて、研究テーマやプレゼンテーションの方法論に関して学術研究および大学での教育に関するの研鑽を積んだ。そのほか、会長、副会長、事務局長など主要理事に学会運営に関わる助言をもらい、一般会員とも親睦を深める機会を得た。 　なお、大会発表の題目は以下のとおりである。 I. トクビジン版・新約聖書に診られる独自性 II. イーディス・ウォートンの「カーフォル」における語り手の意味 III. ラフカディオ・ハーンのイギリス時代再考 IV. 分科会報告　検閲と発禁を考える－英米文学を中心に－ 基調講演　リメディアルクラスの英語教育 V. 低学力層へのCLTアプローチと英語 VI. ブレイク作品にみる「植物的成長」 VII. ベン・ジョンソンの『錬金術師』にみられるhumourの意味と用法 ワークショップ　文学における植物をどう読むか－アメリカ・イギリス・カナダ文学と象徴－